

REHAMAGA



専門外来紹介

リハビリテーションにおける痙縮治療の最新情報



社会医療法人 北斗

十勝リハビリテーションセンター

第3 金曜日

15:00~17:00

予約制



●成人リハビリテーション ●ボツリヌス療法(適応判断・施注)

北海道大学病院
リハビリテーション科
むかいの
向野 雅彦教授

- 日本リハビリテーション医学会専門医・指導医 代議員、ICF データマネジメント委員会 委員長
- 国際リハビリテーション医学会 生活機能評価ツール (ClinFIT)委員会 共同委員長
- WHO国際分類ネットワーク ICF改訂諮問委員会委員長、生活機能・障害リファレンスグループ日本協力センター投票委員

症例

●年齢・性別 / 60歳代・男性 ●診断名・障がい名 / 左被殻出血・右片麻痺

●現病歴・経過

数年前に左被殻出血発症し入院。右上下肢に重度麻痺が残存したが、日常生活は下肢装具着用し杖または独歩にて自宅退院された。今回、長年の生活の中で麻痺側下肢柔軟性低下が強まり歩行距離低下と歩容の悪化がみられ、リハビリテーション専門外来でボツリヌス療法を実施。

●ご本人の希望

楽に歩けるようになって散歩したい。
右足を軽くして、つまずきを無くしたい。

●目標

歩容の改善、歩行距離の延長を図る。

ボツリヌス療法とリハビリテーション

ボツリヌス療法

医師が、歩行を阻害する足関節を硬くしている筋に対して針筋電と超音波ガイド下で筋を同定しボツリヌスキトシンを筋肉内に注射します。



リハビリ

施注後、1ヶ月間、週2回の頻度で、1回40分のリハビリテーションを実施しました。理学療法士が関節可動域運動やバランス練習、歩行練習を行いました。



Before



投与前

右足関節が硬く、足先が下を向き、歩く時につま先が床にひっかかりやすい状態でした。つまずきを避ける為、身体を大きく左に傾け、右下肢を努力的に持ち上げて歩行していました。連続歩行距離は100m程度で、ご本人様からは「足が床から離れにくい」「足が重たい」の訴えが聞かれました。

After



治療後2週間

足関節の硬さが軽減したことで、足先が下を向くことが軽減し、つまずく頻度は減少しました。施注前と比較して身体を大きく傾けることなく、足の振り出しが円滑になりました。歩行スピードが向上し、連続歩行距離が200m程度まで延長し、本人からは「足が軽くなった」「歩きやすくなった」との感想が聞かれました。

当症例 担当者からの コメント

理学療法士より

足関節の痙縮により足の重さや歩きにくさを感じ、長距離の歩行が困難となっていた患者様でした。ボツリヌス施注後は、つまずきが軽減し歩行速度や歩行距離の延長を図ることが出来ました。ボツリヌス施注とリハビリを行っていくことで動きにくさや歩きにくさの改善が図れる可能性があります。症状に合わせて施注量やリハビリの週回数の調整が可能ですので、もし手足の痙縮で困っていることがあれば、お気軽にご相談ください。



伊藤 稔基

●小児リハビリテーション ●ボツリヌス療法(適応判断・施注)

第1金曜日
11:00~14:45
予約制



札幌医科大学
リハビリテーション医学講座
とき
土岐 めぐみ助教

- 日本リハビリテーション医学会認定医・専門医・指導医
- 義肢装具判定医
- 介護支援専門員
- 日本スポーツ協会公認スポーツドクター
- 公認パラスポーツ医
- Vodder式リンパ浮腫セラピスト
- Dr Vodder Academy International Theory teacher

症例

- 年齢・性別 / 就学前女児
- 治療経過

2019年より外来リハビリテーションを週1回の頻度で開始。
2023年3月に1回目、同年8月に2回目、2024年2月に3回目、
同年5月に4回目のボツリヌス療法を実施。

●ご家族の希望

踵が着くようになって欲しい。
足首が柔らかくなって欲しい。

●目標

歩き方の改善、成長に伴う関節の硬さや変形予防。

ボツリヌス療法とリハビリテーション

ボツリヌス療法

施注部位や施注量については
医師と担当のセラピストが筋
肉の硬さや日常生活動作、本
人やご家族のニーズなどを確
認しながら決定します。



リハビリ

施注後は集中的リハビリテ
ーションを行うため、リハビリ
テーションの頻度を3ヶ月間、
週2~3回に増やしました。
また、通常のリハビリに加え、
電気刺激療法(普段は活動し
にくい足の筋肉に電気刺激を与え、筋肉の働きを促す
方法)も併用しました。



Before



投与前

歩いたり走ったりすると常に右
足の踵が浮く様子が見られてい
ました。
ふくらはぎの筋肉の緊張が高く、
足首の可動域を小さくしてしま
っていることが主な要因と考
え、ボツリヌス療法が適応と
判断されました。

After



治療後2週間

ふくらはぎの筋肉の緊張が軽
減したことにより、足首の可
動域が向上しました。
また、歩いているときも足首
を以前より動かせるように
なったことで、踵がつきやす
くなり、つまずいてしまうこ
とも減りました。

理学療法士より

本患者様は、歩いたり走ったりすることは出来ていましたが、特に右の踵が
床に着きにくく、つま先立ちの状態です歩いてしまうことが徐々に多くな
っていました。この状態が続くと関節自体が硬くなったり、変形が進んでしま
うことや、つまずいて転びやすくなることが予想されました。特にお子さん
の場合、成長や活動量の増加により関節の硬さが強くなる傾向があります。
そのため、適切な時期にボツリヌス療法を開始し、リハビリテーションと
併用することでリハビリの効果をより高めることが重要と考えます。また、
適応判断がある本患者様のように複数回繰り返しボツリヌス療法を実施
する患者様も増えてきています。



江川 奈美

ご家族さまの感想

普段は踵が浮いて歩くことが多
く、足が引っかかりたり転ん
だりすることもありました。ボツ
リヌス療法を受けて、足首が柔
かくなり踵が着きやすくなりま
した。普段の姿勢も前かがみに
なることが多かったのですが、
足が着きやすくなったことで姿
勢が良くなったと思います。





公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価^{※1} にて4つのS評価^{※2}を取得しました 2024年4月認定

十勝リハビリテーションセンターでは、2023年12月18日(月)と19日(火)の2日間にわたり、初回の審査<3rdG:Ver.2.0>を受審。2024年4月に一定基準を満たした病院として病院機能評価の認定を受けました。また以下の項目でS評価「秀でている」を獲得しました。

- 1.5.4/倫理・安全面などに配慮しながら、新たな診療・治療方法や技術を導入している
- 2.2.18/作業療法を確実・安全に実施している
- 3.1.5/リハビリテーション機能を適切に発揮している
- 4.2.4/職員にとって魅力ある職場となるよう努めている



※1: 患者さまの命と向き合う病院には、その医療の質を担保するために備えているべき機能があります。国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする公益財団法人として 1995年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行ない、一定水準を満たした病院を「認定病院」としています。

※2: S、A、B、Cの4段階で評価されます。

7月5日/セミナーを開催しました

Brain-Machine Interfaceによる イノベーション — 重度上肢麻痺患者へ明日を —



演題1 ●座長 / 阿部 正之 十勝リハビリテーションセンターリハビリテーション部 部長

「Brain-Machine Interfaceの活用を含めた当院の上肢治療戦略について」

講師 / 十勝リハビリテーションセンター

先進リハビリテーション推進室 副室長 高橋 良輔

演題2 ●座長 / 向野 雅彦先生 北海道大学病院リハビリテーション科 教授

「脳の可塑性とAI：基礎研究から医療機器化までの歩み」

講師 / 慶應義塾大学 理工学部生命情報学科

うしば
教授 牛場 潤一 先生



社会医療法人 北斗

十勝リハビリテーションセンター



〒080-0833 帯広市稲田町基線2番地1

☎ 0155-47-5700

FAX 0155-47-5701

☎ 電話対応時間 平日 / 9:00~17:00、土曜 / 12:00まで

- 帯広駅から車でおよそ20分
- 十勝バス「十勝リハビリテーション前」より徒歩2分